

TFI+の説明書

鳥取県農林水産部森林・林業振興局

※本資料は、R5年1月17日現在の内容です。今後変更となる可能性があるためご注意ください。
最新の情報は、TFI+ 特別サイトで随時更新します。

TFI+とは？

”Tottori Forestry Innovation+”の略。R4年度から鳥取県が開始した森林ビッグデータ等を活用したソリューション開発に係るプロジェクトの名称。

- ✓日本一小さい鳥取県（人口47位、面積41位）から新たな林業イノベーションの扉を開きたい
- ✓新たなアイデアを取り込んで林業分野で長年解決できなかった課題の解決に繋げたい



公募テーマ

鹿児島大学寺岡教授をはじめとした外部有識者からなるテーマ検討会において約半年間の議論を重ねて公募テーマを決定。

システム開発部門 ※システム開発部門は、実際に試作品開発を行っていただきます。

異常気象に伴う災害の発生防止や地球温暖化対策への貢献など、近年、森林の果たすべき役割が益々高まっています。一方で、国産材価格の低迷に伴う森林所有者の山離れ等、原木生産体制には依然として多くの課題があります。

そこで、航空レーザ測量データ等の多様なデータを組み合わせ、森林の価値を評価・向上させて、『**県産材の生産量増大**』に繋げるためのアプリケーションやサービスの開発に関するアイデアを募集します。

※県産材の素材生産量増大に繋がるものであれば、下記テーマに限らなくて良い。また、テーマの一部実施でも構わない。

【テーマ1】

各森林における用途別（製材・合板・チップ）原木供給可能量の推定。

素材生産工程等を踏まえた森林所有者への還元額を評価するためのアプリケーションやサービスの開発。



【テーマ2】

各森林における二酸化炭素固定量の評価と将来予測及びその可視化。素材生産・流通工程及び木材利用を踏まえた、二酸化炭素の排出・固定量を総合的に評価するためのアプリケーションやサービスの開発。



アイデア部門

森林は、木材等林産物の供給をはじめ、県土を守り、豊かな水や美しい景観を提供する等、様々な恩恵をもたらしており、森林を守り育てる意識を醸成しながら、未来の世代に引き継いでいくことが重要です。

そこで、森林・林業に対する『**県民等の関心を高める**』ためのアプリケーションやサービスの開発に関するアイデアを募集します。

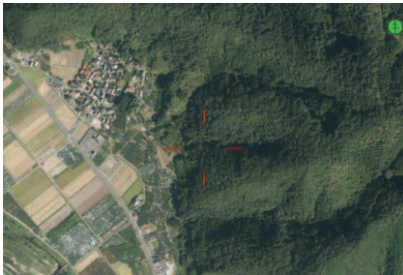
主な提供データ

鳥取県オープンデータポータルサイト（Open Data Tottori）でサンプルデータを提供。公募事業者には、“とっとりデジタルらぼ”で全データを提供。

✓ 林業セクションが保有するデータに加え、他部局が保有するデータも提供

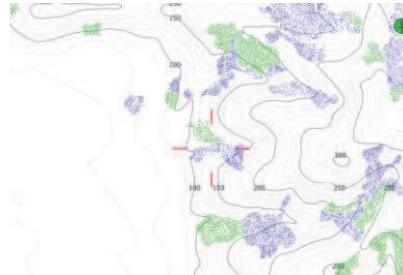
空中写真オルソ画像

- ▶ 航空機から撮影したカラーの画像
- ・ H20から撮影。全市町村分有り



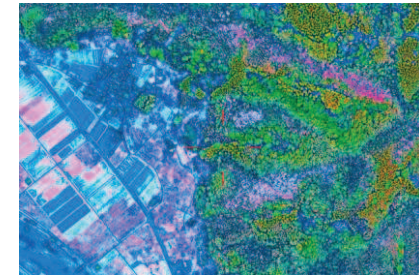
立木情報

- ▶ 立木の樹頂点のデータ
- ・ スギ、ヒキ、マツの樹高、材積等



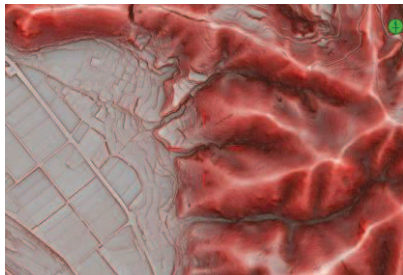
レーザ林相図

- ▶ 森林の種類毎に塗り分けた図面
- ・ スギ、ヒキ、マツ、竹、広葉樹で区分



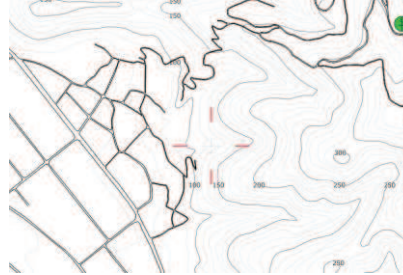
微地形表現図

- ▶ 地形起伏を明瞭に表現した表現図
- ・ DEMデータの提供も可能



路網データ

- ▶ 航空レーザデータから解析した、森林作業道等の路網の配置図



その他のデータ

- ・ 等高線データ
- ・ 森林計画図
- ・ 立木密度分布図
- ・ 相対幹距比
- ・ 傾斜区分図
- ・ 崩壊地判読データ
- ・ 森林の施業履歴
- ・ 土砂災害危険情報
- ・ 雨量データ、積雪データ など

全体スケジュール

R4年度中にコンペティションにより各部門の最優秀者を選考。
システム開発部門については、R5年度にプロトタイプを開発。



- ▶ 応募受付 (R5.1.11～、参加表明書提出期限R5.1.31、提案書提出期限R5.2.28)
 - ・ R4.12月20日に募集要領を特設サイトに公開。
 - ・ R4.12月中にサンプルデータ配布開始。応募受付後、とっとりデジタルらぼでデータ配付。
 - ・ R5.1.11から応募の受付を開始。
- ▶ メンタリング
 - ・ メンタリングは2期間に分けて実施。
 - ・ 第1ターム (R5.2月上中旬) : 公募テーマに関連した情報を提供し、応募者のアイデア発想を支援。
 - ・ 第2ターム (R5夏頃) : 採択事業者のプロトタイプ開発に係る伴走支援。
 - ・ 第2タームでは、林業現場の視察や現場実践者と意見交換するワークショップを開催。
- ▶ 選考会・結果発表
 - ・ 応募者多数の場合は、書類による一次選考実施 (R5.3月上旬)。
 - ・ 二次選考会 (R5.3月下旬) は、応募者によるプレゼンを実施。結果は選考会と同日に発表。
- ▶ プロトタイプ開発 ※システム開発部門に限る。
 - ・ R5.4月から1年間採択事業者による試作品開発。
- ▶ 成果報告会 ※システム開発部門に限る。
 - ・ R6.3月に公開開催。

メンターの選定

第1タームは講座形式で開催する。

第2タームは選定事業者や開発内容に応じたメンターを個別に選定する。

▶ 第1ターム・・・いずれも講座形式、Web形式での開催とする。

区分	メンター	概要
鳥取県の森林・林業・木材産業	池内 富久 鳥取県農林水産部森林・林業振興局 局長	鳥取県の森林・林業・木材産業の現況と施策の方向性
林業経済・林業経営	芳賀 大地 鳥取大学農学部生命環境農学科 助教	林業経済の基礎。林業経営の現状・課題と今後の可能性
鳥取県内の原木流通	古都 誠司 鳥取県森林組合連合会 課長	鳥取県の原木流通の現状と課題、SCMの取組について
森林吸収源・気候変動	松井 哲哉 森林総合研究所気候変動研究室 室長	気候変動の基礎。国際・国内制度の動向
	江原 誠 森林総合研究所気候変動研究室 主任研究員	
リモートセンシング技術	米 康充 島根大学学術研究院農生命科学系 准教授	リモートセンシング技術の基礎、森林・林業・木材産業分野での活用事例・動向
航空レーザ計測データ	大野 勝正 アジア航測(株)森林・農業ソリューション部 部長	航空レーザ計測の概要とデータの特徴。鳥取県が保有する航空レーザ計測データの内容

▶ 第2ターム・・・講座形式に加え現地視察やハンズオン支援等

区分	メンター	選定理由
	事業採択者・テーマに応じて選定	

応募資格・選考・支援内容

エントリーに必要なのは“意欲”と“想い”。鳥取県だけではなく、全国、さらには世界に成果を展開。

応募資格

▶各部門共通

- ・個人、法人は問わない。グループや共同事業体による申請も可能。
- ・国籍は問わない。（ただし、提出書類及びプレゼンは日本語に限定）
- ・原則、選考会、表彰式に参加できること。
- ・開発したシステム等を展開する際には、“TFI+”の取組による成果である旨を明示すること。

▶システム開発部門

- ・アプリケーションやサービスの開発を行う意思がある者。
- ・成果報告会で報告が行える者。

選考基準

▶各項目5点の25点満点で採点する。

- ・独創性：他者とは異なる独創性のある発想かどうか
- ・実現性：内容が実現可能であるかどうか
- ・妥当性：社会的なニーズに沿っているか
- ・地域性：鳥取県が持つ総合的な性格を活かした内容かどうか
- ・発展性：将来発展していく可能性があるかどうか

支援内容

▶賞金

- ・システム開発部門：120万円、アイデア部門：10万円

▶開発支援

- ・”とっとりデジタルらぼ”による開発環境の提供
- ・メンタリングによる開発支援

▶その他採択事業者は表彰する。